



たてやま おらがんまつち



館山市富崎地区相浜

なみ ふけ まる

御座船 浪除丸



地域の紹介

相浜地区は、館山市の南部に位置し、大神宮村の西、巴川の河口左岸一帯で、西側は海を臨みます。かつては、地引網が盛んな漁村でした。師走には、名物「ナマダ干し」が見られます。市内で唯一太平洋「外房」に面した海水浴場があり、良く晴れた日には、富士山の遠望が見事です。日本の道100選に選ばれている「房総フラワールイン」には、きれいな花が咲き誇り、ドライバーの目を楽しませてくれます。

自慢の御船 浪除丸

御船は朱塗りで他地区の御船と比べて水押の角度が緩い川遊び船です。造船年代は詳しくはわかりませんが、宝永年間に江戸の浜離宮にあった將軍家の川船から、幕府御用船匠が図面を取り建造したと伝わっています。現在の御船は明治三十年代に改修を加えられたもので、彫刻は安房郡国分村の名工後藤喜三郎橘義信の作。台車は六輪木車で、軸受は檜無垢材で加工されています。てっこ棒で方向変換するので木車でないと同様に絶えられません。

水押には緋毛氈が掛けられ、先端には鳳凰の金カシザシが付けられています。障子に囲まれた屋形の中では船歌が歌われます。船尾には武具が並びます。祭囃子はゆったりとした調子で、船歌にあわせて上品に叩かれます。近年では、子供たちへの指導も復活し、船歌も後継者を育てながら伝統を大切に継承していかうとしていきます。何よりも地元に住む全ての人の自慢の祭りだから。



「相浜」半纏二種と「相歌」の半纏。



後藤義信作の船尾龍彫刻



船首水押しかんざしの鳳凰

浪除丸

